



2023年度茨城県平和委員会定期大会報告

30周年記念誌を活用し、仲間づくりをすすめよう

今年度の定期大会は6月10日(土)13:30から県立青少年会館で開催されました。22地域、44人の役員及び代議員から多彩な各地域の活動が報告されました。



■女性代議員の参加も!

代表理事の飯田美弥子弁護士の開会挨拶に続いて、岩月康範・日本平和委員会事務局次長、稲葉修敏・日本共産党茨城県書記長に来賓挨拶をいただきました。

昨年1月、茨城県厚生連労働組合(茨厚労)の書記局で働く3人の女性会員の方々が設立した「ら・ら・ら平和委員会」。その代議員として、藤田周さんが初めて参加しました。また、さくらの街日立平和の会、石岡平和の会、阿見平和の会、東海村平和委員会からも、女性会員の参加がありました。次年度の大会にはさらに多くの女性代議員に足を運んでもらいたいと思います。

議長は、増山みゆきさん(石岡平和の会)、栗又衛さん(百里平和委員会)のお二人にお願いしました。

■総括、6つの構えと具体的方針、規約改正、人件費に関する改正案等を提案

篠原睦事務局長が、活動日誌(経過報告)・総括・情勢及び23年度方針の6つの構えと具体的方針案、規約改正案、事務局員の人件費に関する改正案について提案。「30周年記念誌」を活用して、仲間をふやそうと訴えました。決算・予算に関する提案は石井明事務局次長がおこない、椎名定さんが会計監査内容を報告しました。これらの提案について一括して討論をおこない、延べ15人の代議員が発言しました。

■延べ15人の代議員が、多彩な活動を報告

地方自治体が自衛隊員募集の対象者名簿を提供している問題(おおみや)、東海第二原発の再稼働と避難計画の問題等(東海村、かすみがうら)、戦争と平和展に展示されたパネルが市内の4中学校でも展示されたこと(守谷)、駅頭での街頭宣伝について(石岡、守谷)、百里平和公園整備と基地反対運動を、会員の高齢化の中で実施している問題(鹿行)などが出されました。

平和の会しもつまの青木勇さんは「いいとこどり報告を

します」と前置きし、女性と男性が一人ずつ入会したこと、下妻市長と懇談する中、新市庁舎で「戦争と平和」パネル展開催の日程が決まったと披露しました。平和の会結成から8年目にして開催することができた喜びを語りました。梅沢優さん(百里)は、初午祭お礼と3・1ビキニデー参加の報告。衆議院解散、総選挙が実施された際は、「悪法を次々と強行採決した政党には投票しない」と、決意を述べました。

休憩を挟んで、大会議案、決算予算案、規約改正案、事務局員の人件費改正案について例年と同じように拍手で採決し、採択されました。

■新体制の発足

次に理事を選出して休憩。休憩中の開催した第1回理事会で、今年度の代表理事、事務局長と次長(3人)、常任理事、理事を提案し、承認されました。近藤輝男代表理事(土浦)が退任され、新たに青木勇さんが代表理事に就任されるなど若干名の役員交代がありました。

木村泉代表理事が、「ひたちなか海浜公園」がかつては米軍の射爆場だったという歴史をふり返りながら閉会挨拶。その後、参加者全員で集合写真を撮りました。マスクを外し、「チーズ」ではなく「戦争反対」と声を合わせ!

■議案は事前に発送。ダイジェスト版に代わって、「かわら版で報告」に変更

大会議案が必要な会員に対しては、6月4日にEメール送信(常任理事、理事、平和かわら版読者)し、5日には各平和の会・平和委員会宛てに代議員数分をヤマト便で発送しました。これまでは、大会後に大会議案のダイジェスト版を全会員に届けましたが、今年度から上記二つの方法によって事前に多くの会員に議案が送ることとしました。ダイジェスト版としては、この平和かわら版の報告をもって代えることとしました。議案が必要な会員は、印刷物またはメールでお送りしますので事務局までご連絡ください。

4年ぶり！平和関連施設見学ツアーに13名が参加 かすみがうら平和の会

かすみがうら平和の会は、5月21日、4年ぶりに「平和関連施設見学ツアー」を実施、会員11名、一般2名の13名が参加しました。これは、「東海第二原発・北茨城風船爆弾の地・特攻艇震洋格納庫跡見学ツアー」「霞ヶ浦航空隊関連施設見学ツアー」に次ぐ3回目の企画でした。今回は、「筑波海軍航空隊跡・内原満蒙開拓資料館・水戸城大手門と二の丸角櫓復元観光」を目的としました。内原満蒙開拓資料館では、茨城県平和委員会の生き字引・伊達さんに2時間に亘る解説をいただきました。今回が2度目の参加となった土浦市の関谷和子さん(非会員)から寄せられた感想文を紹介します。

■ 笠間市にある「筑波海軍航空隊記念館」と水戸市内原にある「内原郷土史義勇軍資料館」に行きました。ゼロ戦の特攻隊員の訓練施設。勇敢に散った優秀な若者、戦闘機と映画の宣伝、観光ポスター、パネルのどこにも戦争への反省がない。戦争という国策で死んだ特攻隊員、殺したのは日本国。台湾、朝鮮、中国、アジアで戦争をして、他国の人々を殺し悲惨な目に遭わせたのも日本。加害者である事もごめんなさいの一言も無い。そんなんで「国際交流」なんて言えない。

■ 満蒙開拓青少年義勇軍の訓練施設。館長の説明では日本国内の食料不足を回避するために満州に移民を送って増産に励んだ、みたいなことを言っている。違うでしょ！帝国主義と植民地支配の国策のもと、計画的に割り当て満州に送り出したんですよ。家族での移住では足りなくて、15歳の何もわからない少年たちを3ヶ月で促成栽培訓練した場所、満蒙開拓の悲劇の元凶の大本山が、内原訓練所ですよ。

戦争が終わって、満州に取り残された人達。男は根こそぎ兵隊に取られてしまっている。女、子供、老人は集団自決や生死を賭けて逃避するしかない。逃げる途中で家族や団員の命を守る為、性接待に差し出された女性達、中国に置き去りにされた残留婦人や残留孤児、そのまた2世3世、なによりも、日本人に土地を奪われ、虐殺され非業の死を遂げた中国の人々。これらの何万、何百万、何千万の人々の姿を頭に描くことが出来ない人、権力者が税金で作った施設なのだろう。もう、胸が痛くて苦しくて、どうしようもなかった。

その後、場所を変えて、伊達郷右衛門さんのお話を聞いた。満蒙開拓青少年義勇軍の事、五族協和、王道楽土の欺瞞、少年を戦争に駆り立てる風潮と皇国精神の教育。1945年の終戦、戦前の77年と戦後77年。戦争の性格と帝国主義、植民地支配、ファシズムの打倒、民主主義、国民主権、個人主義、人権についても大急ぎで解説して下さった。戦争が当たり前だった戦前。平和が当たり前の戦後。その違いを理解するためには明治憲法と日本国憲法を学ぼう。やっとスッキリしました。

未来のために、歴史を正しく伝えて、あった事を無かったことにせずに、記憶し思考し、日常的に思いおこす、そんなアイデアが欲しい。



▲復元された水戸城大手門前にて

「5・19」茨城アクション！ 戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会

この日から21日までの3日間、G7広島サミット(主要7カ国首脳会議)が開催され、ウクライナのゼレンスキー大統領の参加が大きな話題になりました。岸田文雄首相は、「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り」とよく言いますが、難民・外国人の命を脅かす「入管法改悪案」、「性的マイノリティーへの差別を禁止する法律がない」など日本政府の人権問題への取り組みの後進性が指摘されています。

また「自由で開かれた国際秩序」には中国、ロシアを排除するという分断政策があります。同日、中国陝西省西安で「中国・中央アジアサミット」が開幕し中国のほか、カザフスタン、ウズベキスタンなど6カ国首脳が集まったことも報道されています。すべての国を包含する平和の枠組みこそ求められているのではないのでしょうか。

「戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会」の田中重博

会長は、米タイム誌が「岸田氏は数十年にわたる平和主義を放棄し、日本を真の軍事大国にしたいと望んでいる」と岸田首相の本質をついた分析をした記事を紹介。「戦争国家」への道を許さない闘いが必要だ、と訴えました。県原水協の岩清水理氏は、広島でサミットが開かれたことに触れながら、今年も「国民平和大行進」がスタート、「県内は6月30日(金)北茨城市から出発しますので一緒に歩きましょう」と参加を呼びかけました。核兵器禁止条約は92カ国が署名しており、「核軍縮」がすすむことに期待したいとスピーチしました。大内久美子日本共産党茨城県副委員長は、「大軍拡・大増税反対」の署名を青年にお願いしたところ、「日本が攻められたらどうするんですか」と問われたことを紹介。「攻められない国づくり。徹底した外交努力が必要なのではないか」と答えた。青年と対話したことはとてもよかった、と話されました。

「茨城アクション・19日行動」に10人が参加。「大軍拡反対」署名は、1時間余で水戸市(4人)、日立市(2人)、守谷市(1人)と計7人からいただきました。